

企業短期経済観測調査（道北\*地域分）  
（調査対象企業：道北\*47社）

※上川、宗谷、オホーツク総合振興局管内  
回答社数構成比 %ポイント  
( )内は前回調査時予測

(判断D. I.)

	2015/6月	9月	12月	2016/3月	6月	9月	2016/12月 までの予測
業況判断						( 0 )	
< 良 - 悪 >	13	8	6	2	8	17	9
うち製造業	27	9	9	18	0	40	30
非製造業	8	8	5	▲ 3	11	11	3
国内での製商品・サービス需給						( ▲ 5 )	
< 需要超過 - 供給超過 >	▲ 9	▲ 9	▲ 15	▲ 7	▲ 2	▲ 18	▲ 20
製商品在庫水準						( — )	
< 過大 - 不足 >	▲ 3	5	0	0	0	▲ 3	—
生産・営業用設備						( ▲ 13 )	
< 過剰 - 不足 >	▲ 5	2	0	▲ 2	▲ 7	▲ 5	▲ 7
雇用人員						( ▲ 30 )	
< 過剰 - 不足 >	▲ 13	▲ 15	▲ 9	▲ 28	▲ 24	▲ 39	▲ 35
資金繰り						( — )	
< 楽である - 苦しい >	6	▲ 10	▲ 2	▲ 2	2	11	—
金融機関の貸出態度						( — )	
< 緩い - 厳しい >	25	15	26	22	20	34	—
借入金利水準						( ▲ 11 )	
< 上昇 - 低下 >	▲ 7	▲ 7	▲ 7	▲ 22	▲ 22	▲ 18	▲ 11
販売価格						( 5 )	
< 上昇 - 下落 >	0	2	▲ 5	9	7	4	0
仕入価格						( 34 )	
< 上昇 - 下落 >	36	27	26	15	30	17	27

(注) 2014年9月以前は調査対象企業見直し前の旧ベース、2014年12月以降は見直し後の新ベース。

「製商品在庫水準判断」および「資金繰り判断」、「金融機関の貸出態度判断」の「2016/12月までの予測」は調査対象外。

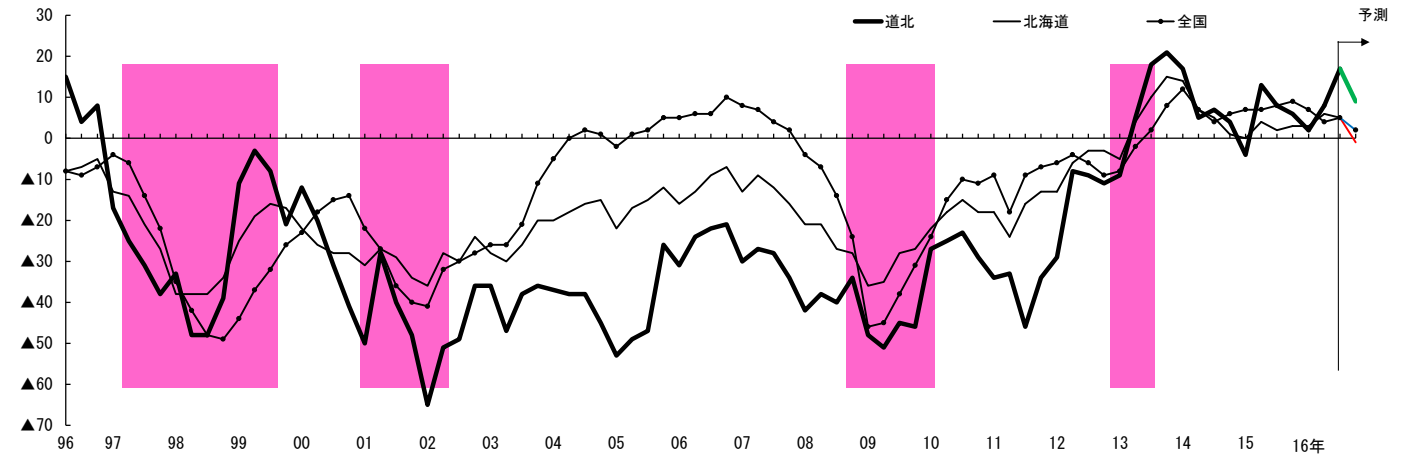
全産業、前年度比%、  
< >内は前回調査比修正率%

(事業計画)

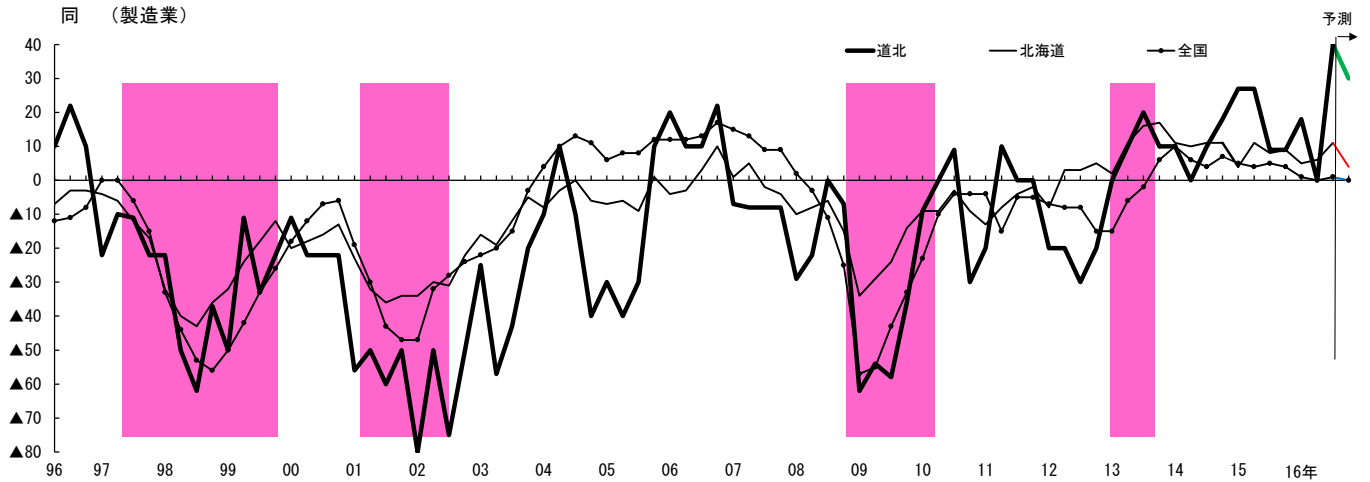
	2014年度実績	2015年度実績	2016年度計画		
			上期	下期	
売上高	-4.3	+1.0	+0.5 < +2.0 >	+1.8 < +2.0 >	-0.6 < +2.1 >
経常利益	-47.4	+70.2	-0.4 < +5.8 >	-15.5 < -4.0 >	+13.9 < +14.0 >
当期純利益	-57.0	2.2倍	+10.3 < -8.6 >	-32.7 < -28.6 >	+74.5 < +9.0 >
設備投資額	+97.6	-69.0	-20.0 < +9.3 >	+24.5 < +4.6 >	-57.4 < +22.6 >

## 2016年9月短観・調査結果

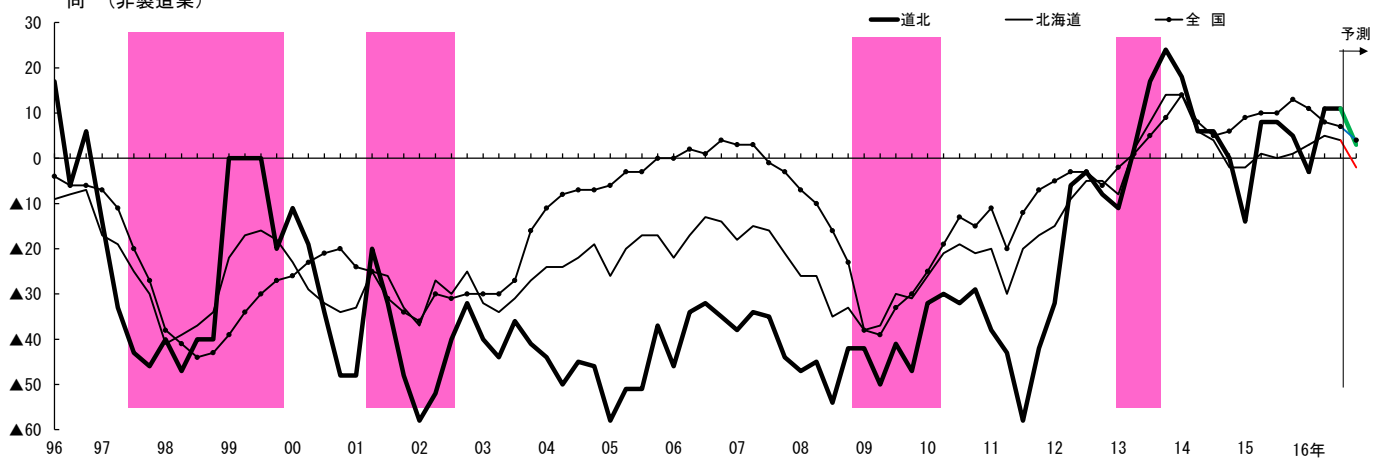
業況判断D. I. (「良い」 - 「悪い」、%ポイント)



同 (製造業)



同 (非製造業)



(注)

道北：上川、宗谷、オホーツク総合振興局管内

2014/9月以前は調査対象企業見直し前の旧ベース、2014/12月以降は見直し後の新ベース。

ピンクシャドーは景気後退期（内閣府調べ）

## 道北地域の企業短期経済観測調査結果（2016年9月）の概要

- 調査対象企業：道北地域 47 社（製造業 10 社、非製造業 37 社）
- 回答率 97.9%（有効回答社数 46 社）
- 回答期間：2016年8月29日～9月30日

### 1. 業況判断 DI

- 9月の業況判断 DI（全産業ベース）は+17と、前回6月調査に比べて改善した（前回+8、前回比+9ポイント）。
  - 製造業の業況判断 DI は+40。建設資材関係や電気機械を中心に前回調査比大幅改善した（前回±0、前回比+40ポイント）。
  - 非製造業の業況判断 DI は+11で、前回調査比横這いだった。
- 先行きの業況判断 DI（全産業ベース・2016年12月までの予測：+17⇒+9）は、悪化を予測。
  - 製造業の業況判断 DI は、建設資材関連を中心に悪化を見込んでいる（+40⇒+30）。
  - 非製造業の業況判断 DI は、建設関連や卸・小売を中心に悪化を見込んでいる（+11⇒+3）。

### 2. 各種判断 DI

- 「製商品・サービス需給判断 DI〈需要超—供給超〉」（▲2⇒▲18）は、建設関連を中心に前回比供給超幅が拡大。先行きは小幅ながら供給超幅がさらに拡大する予測（⇒▲20）。「製商品在庫水準判断 DI〈過大—不足〉」（±0⇒▲3）は、小幅の不足超に転化。「生産・営業用設備判断 DI」〈過剰—不足〉」（▲7⇒▲5）は、不足超幅が小幅縮小。先行きは不足超幅が小幅ながら再び拡大する予測（⇒▲7）。
- 「雇用人員判断 DI〈過剰—不足〉」（▲24⇒▲39）は、建設関連、卸・小売やサービスを中心に前回比不足超幅が大幅拡大。先行きは、不足超が若干縮小する見通し（⇒▲35）。
- 「仕入価格判断 DI〈上昇—下落〉」（+30⇒+17）は、建設、運輸やサービス

などを中心に上昇超幅が縮小。先行きに関しては、これら先を中心に上昇超幅が再び拡大する見込み（⇒+27）。「販売価格判断 DI<上昇-下落>」（+7⇒+4）は、サービスで上昇したものの、小売が下落したことから、全体では上昇超幅が小幅縮小した。先行きは建設関連が下落を予測していることを主因に±0まで縮小する見込み。

- 企業を取り巻く金融環境についてみると、借入金利水準は引続き「低下している」と回答した先が多く、金融機関の貸出態度も緩い超幅が大幅に拡大（「借入金利水準判断 DI<上昇-低下>」：▲22⇒▲18、「金融機関の貸出態度判断 DI<緩い-厳しい>」：+20⇒+34）。企業の資金繰りもさらに好転している（「資金繰り判断 DI<楽である-苦しい>」：+2⇒+11）。

### 3. 事業計画

- 2016年度の売上高は、前年度比+0.5%とほぼ横ばいの計画。経常利益は、同▲0.4%の減益を見込んでいるが、当期純利益では、同+10.3%の増益の計画。設備投資は、現時点では同▲20.0%の計画。

以 上